

各位

会社名 株式会社ビザスク
代表者名 代表取締役 CEO 端羽 英子
(コード: 4490、東証グロース)
問合せ先 執行役員 CFO 小風 守
(TEL. 050-3733-8513)

営業外収益並びに営業外費用の計上及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、2025年2月期（2024年3月1日～2025年2月29日）において、以下の通り、営業外収益として受取還付金、営業外費用として売上税返還損失、特別損失として減損損失を計上することといたしましたので、お知らせいたします。また、当連結会計年度の通期業績予想に関しましては、本日公表の「業績予想に関するお知らせ」をご覧ください。

1. 営業外収益に計上する受取還付金の内容

当社の連結子会社である Coleman Research Group, Inc.（米国）において、過年度に納付した売上税の還付を受けたため、当第1四半期連結損益計算書に当該還付金を36百万円計上しております。

2. 営業外費用に計上する売上税返還損失の内容

当社の連結子会社である Coleman Research Group, Inc.（米国）において、過年度に納付した売上税のうち、税務当局から還付された額及び今後還付が見込まれている額の一部を、過去に取引を行った顧客に対して返還しており、当該返還額を売上税返還損失として当第1四半期連結損益計算書に約41百万円計上しております。

3. 特別損失に計上する減損損失の内容

- ① 当社の連結子会社である Coleman Research Group, Inc.（以下、Coleman 社）が当社とともに開発している顧客及びエキスパート向けのソフトウェアの開発コストのうち、米国会計基準に基づいて資産計上すべき金額を資産に計上したのち、Coleman 社の業績動向を踏まえて減損損失として計上した金額を、当第1四半期連結損益計算書において減損損失として約61百万円計上しております。

当社は、2024年4月に業績予想を公表しており、その調整後 EBITDA の計算においては、当期のソフトウェア開発コストの全額を調整後 EBITDA の計算上の費用項目として取り扱うこととしていたことから、減損損失として開発コストを計上する場合の当該減損損失の金額は、調整後 EBITDA の計算上の費用項目として扱うこととしております。そのため、当該ソフトウェア開発コストに関する減損損失の金額は、2024年4月に公表した業績予想における取扱高、営業収益、調整後 EBITDA に影響しません。また、本日公表した業績予想にも織り込んでおります。

Coleman 社が契約している New York 州及び North Carolina 州におけるオフィスの賃貸借契約について、米国会計基準に基づいて、New York のオフィスは今後1年分程度、North Carolina 州のオフィスは今後約4年分程度の賃料合計額に基づいて、割引現在価値法により当該賃料の現在価値合計額を算出し、当該金額を当第1四半期連結会計期間において一括でリース資産（使用権資産）として計上することとしました。また、同社の直近の業績を踏まえて当該資産計上額が減損損失として計上されることとなったため、当該減損損失を当第1四半期連結損益計算書において約134百万円計上しております。なお、これは一過性の費用であり、今後継続的に発生する費用ではございません。当該リース資産（使用権資産）の減損損失は、2024年4月に公表した業績予想における取扱高、営業収益、調整後 EBITDA に影響しませんが、本日公表した業績予想の当期純利益の金額に織り込んでおります。

以上